

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録
(第 3 号)

1 平成9年3月12日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 辻 田 実
3番 三 上 英 男
5番 忍 足 利 彦
7番 齊 藤 実
9番 島 田 保
11番 秋 山 光 章
13番 脇 田 安 保
15番 山 崎 雅 己
17番 岩 村 勝 弘
19番 川 名 正 二
21番 山 中 金治郎
23番 石 井 昌 治
25番 飯 田 義 男

2番 本 橋 亮 一
4番 小 幡 一 宏
6番 鈴 木 順 子
8番 増 田 基 彦
10番 宮 沢 治 海
12番 植 木 馨
14番 永 井 龍 平
16番 鈴 木 忠 夫
18番 日 下 君 敏
20番 神 田 守 隆
22番 榎 本 春 光
24番 福 原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄 司 厚
収 入 役 永 野 修
総 務 部 長 鈴 木 完 二
経 済 環 境 部 長 小 沼 晃
水 道 課 長 谷 貝 実

助 役 小 幡 清 之
企 画 部 長 寺 嶋 清
市 民 福 祉 部 長 渡 辺 富 雄
建 設 部 長 鈴 木 信 一
教 育 委 員 会 長 高 橋 博 夫

1 出席事務局職員名簿

事 務 局 長 兵 藤 恭 一
書 記 四ノ宮 朗
書 記 鈴 木 達 也

事 務 局 長 補 佐 鈴 木 哲
書 記 島 本 一 樹
書 記 松 浮 郁 夏

1 議事日程(第3号)

平成9年3月12日午前10時開議

議案第 9号 館山市畑地区に係る公共的施設の総合整備計画を定めることについて

- 議案第10号 館山市行政手続条例の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について
- 議案第11号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第12号 館山市行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第14号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第15号 館山市学習等供用施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第16号 館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第17号 館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第18号 館山市身体障害者ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 日程第1 議案第19号 館山市老人ホームヘルプサービス事業に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第20号 館山市民センター条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第21号 館山市勤労青少年ホームの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第22号 館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第23号 館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第24号 館山市漁港管理条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第26号 館山市水道事業給水条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第27号 館山市下水道条例の制定について
- 議案第28号 館山市都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の制定について
- 議案第29号 館山市国民宿舎利用料徴収条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第30号 市道路線の認定及び廃止について
- 日程第2 議案第13号 財産の取得について
- 議案第31号 平成8年度館山市一般会計補正予算(第7号)

- 日程第3 { 議案第32号 平成8年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
議案第33号 平成8年度館山市老人保健特別会計補正予算（第2号）
議案第34号 平成8年度館山市下水道事業特別会計補正予算（第4号）
議案第35号 平成8年度館山市水道事業特別会計補正予算（第3号）

開 議 午前10時01分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、議案第9号乃至議案第12号並びに議案第14号乃至議案第30号の各議案を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 通告いたしました議案2件について質問をさせていただきたいと思います。

最初は、議案第20号、市民センター条例の改正について御質問をさせていただきます。この議案中、別表2の項の削除、すなわち2階中和室、小和室の削除について、3項目にわたり御質問を申し上げたいと思います。

まず第1点は、説明によりますと、和室を配食サービス事業の事務所として、またボランティア活動に利用するために今回の措置をとられたとされております。そこで、その配食の数量はどのくらいになるのか。また、回数と、これらに加わるところのスタッフの人たちの構成、規模について教えていただきたいと思います。また、あの2階の場所でございますから、調理等についてはどういうふうになされるのか、この点についてもあわせてお伺いする次第でございます。

2点目は、昨年作成された館山市基本計画の8ページに書いてございますところの高齢化対策につきまして、「市民センターは、地域福祉センターとして市民センターを整備し」と書いてあります。議会の通告質問でも再三この点が質問されました。さきの議会におきましては、小幡議

員の方から質問がなされまして、市長は、福祉センターについては、市民センターをもってこれを強化していくという答弁がなされたわけでございますけれども、その市民センターにおきますところの福祉センターとしての整備はどの程度進んでおるのか、お伺いしたいわけでございます。そして、今回の配食サービス並びに事務所の設置は、その福祉センターとしての一環の事業として取り組まれているのか、この点について伺います次第でございます。

3点目は、福祉センターの建設は国の福祉ゴールドプランの施策でもあるわけでございまして、全国の多くの市町村でもって福祉センターが建設されておるわけでございます。館山市は、全国的に見ましても高齢化が進んでおります。それだけに、市民の願いも大きなものがあると思われます。また、庄司市長の選挙公約でもあったと思います。2月13日の房日新聞の投稿欄にこの記事が掲載されておりました。福祉団体6団体の陳情内容等が紹介され、公開質問状の形がとられておりました。そして、その末尾に「福祉センターの建設に対するところの市長さんの明確なお考えをお聞かせくださるようお願い申し上げます」という記事が載っているわけでございますので、この公開質問状的な投稿に対しましてどのように回答されたのか。私は市長の回答というものが新聞に載るかと思っておりましたけれども、載っておりませんので、非常に関心も多いようでございますので、ここでもってその点を明らかにしていただきたいと思っております。

第2項目めの議案でございますけれども、議案第23号館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の一部を改正する条例の制定について御質問申し上げます。非常に長い文面でございますので、今後は残土条例ということに省略させてもらいましてこの項目を質問したいと思いますので、よろしくお願いします。

君津市が12月議会で改正条例を制定いたしまして、非常に県民からも注目を集めまして、新聞に非常に大々的に報道されておったわけでございます。そして、この3月議会には、報道によりますと、館山市と市原市と佐倉市の3市が条例改正を審議しておると言われております。館山市は特に港を持っているために、県外からの残土の持ち込みが非常に多くあることは御存じのとおりでございます。その上、リゾート地として美しい自然があり、これを守っていかなくてはならない観点から、慎重にこの問題については対処しなければならないと思うのでございます。

そこで、5点について質問を申し上げます。まず、第7条でございます。事業許可の改正についてでございます。現行の条例では、道路、河川、水路、その他公共施設に被害を生じさせない措置が講じられていると認めた場合に許可になるという条文でございます。それが今回の改正によりまして、土砂等の性状が周辺環境の汚染を引き起こすおそれがないと認めたときと改められたわけでございます。これは、私は大きな前進だと思っておりますけれども、その中身について伺いしたいわけでございます。すなわち、周辺環境とはどの範囲を指すものなのか、そしてどのようなものが対象になるのか、これらについて具体的に教えていただきたいと思うので

ございます。また、汚染を引き起こすおそれとは、どのような状況のものであるのか、どのようなことであるのか、この点についてもわかりやすく御説明をいただきたいと思うのでございます。

2点目は、第11条の事業の廃止等についての項について御質問を申し上げます。現行は届け出だけであるものを、市長の確認と、環境の保全及び災害の防止を図るための必要な措置を命ずることができるというふうになったわけでございますので、これはすばらしい前進だというふうには解釈をしているわけでございます。そこで、環境の保全と災害の防止が十分であるかどうかをどのようにして認定するのか、また調査し、確認しようとしておられるのか、この点についてお伺いをする次第でございます。明快な御答弁をお願い申し上げます。

第3点目は、15条の改善命令についてお伺いする次第でございます。この条文は、許可基準に違反した事業をした場合に改善勧告をし、なお従わないときは、期限を定めて必要な措置を命ずることができるというふうになっているわけでございます。大変すばらしい条例であるわけでございますけれども、必要な措置の内容はどのような内容が想定されるのか、そして、改善を命ずることができるということでございますけれども、その権限と効力はどのようにして発揮されるのか、一例を挙げて御説明をいただきたいと思うのでございます。

第4点目は、16条の許可の取り消しについて御質問を申し上げます。偽りその他不正な手段による許可が新しく改正条例に組み込まれたわけでございます。どのようなことが想定されるのか、教えていただきたいと思うのでございます。また、許可の取り消しになったときは、直ちに原状回復その他の必要な措置を命ずるものと改正されているわけでございますけれども、現行の条例の原状に復するという条例と、改正によって原状に回復させるという言葉の違いが出てきたわけでございますけれども、この内容はどのように変わってくるのか、ひとつ御説明をいただきたいと思うのでございます。

5点目は、附則2の経過措置でございます。既に申請のあった事業については、なお従前の例によると記されておるわけでございます。そこでお伺いしたいと思うのでございます。現在、この条例の許可を受けておるもの、または申請を受理されておるものは何件ぐらいあるのか、この点についてお伺いをいたします。また、改正条例によりますと、この改正条例は6月1日の施行になっているわけでございます。この間にあった申請が――6月1日までに新しく出されたものについてはどのように措置されるのか、この点についてお伺いをしたいわけでございます。

以上、2議案について御答弁をお願いを申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第20号に関します配食サービスについての御質問でありますが、調理の困難な高齢者等

を対象にいたしまして、昼食を月曜日から金曜日までの週5回、2月末現在で1日当たり93名の方々にお届けしております。従事者につきましては、社会福祉協議会の臨時職員10名の交代勤務によりまして対応いたしております。調理は民間委託でございます。

次に、地域福祉センターとして市民センターをどのように整備していくかとの御質問でございますが、基本計画に基づく市民センターの有効活用の一環として、本年度、2階中小和室を改修し、生活援助型配食サービス事業の事務所及びボランティアの活動拠点として整備したところでございます。今後とも、社会福祉協議会と協議し、有効活用について検討してまいります。

次に、議案第23号に関します御質問でございますが、主な改正内容といたしましては、他の法令の許認可事業にも市条例を適用し、これらの上位法に抵触しない範囲で、特に土砂等の性状の規制を中心に改正しようとするものでございます。

なお、詳細につきましては、経済環境部長より御答弁申し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） それでは、細部についてお答えさせていただきます。

まず、第1点目の第7条、許可基準についての御質問でございますが、本条につきましては、重複している規定を整理いたしまして、新たに土質についての基準を設けまして、安全な土砂による埋め立て等を確保しようとするものでございます。

それから、第2点目の11条の必要な措置は何かとのことでございますが、廃止された事業所からの土砂等の流出防止対策などでございます。

第3点目の第15条、改善命令の必要な措置とは何かとの御質問でございますが、必要な措置とは、第14条の改善勧告で指示いたしました土砂等の流出防止対策や汚染土壌の撤去などの改善措置を言うものでございます。

なお、この改善命令によりまして実行されなかった場合には、次の手だてといたしましては停止命令、こういうことになるわけでございます。

次に、第4点目の16条、許可の取り消しの不正な手段とはということでございますが、故意に事実と異なる内容で許可を受けた場合、こういうことでございます。一例を挙げてということでございましたんですが、借地で地主との契約書を偽造または改ざんした、隣地の同意書を偽造した、安全な土砂と偽って有害な産業廃棄物を搬入した、こういうふうなことが考えられると思います。

次に、第5点目の附則第2項についての御質問でございますが、現在申請中の件数はございません。許可をし、継続中の件数は1件でございます。

それから、施行日に関しましての御質問でございますが、施行日を6月1日にしたことは、こ

れはやはり周知をする、条例改正の趣旨を周知するというようなことで期間を設けてあるわけでございます。この間までの申請についてはどう対応するのかという御質問でございますが、これは従前の条例によりまして適正に対応してまいりたい。またさらに、改正条例の趣旨を踏まえましての対応、このように考えております。

それから、ちょっと漏れましたが、第16条のいわゆる原状回復または原状に復するというところについて、この意味の違いはどうかということでございますが、これは意味の違いはございません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 私は、ヒアリングの中でも今質問した事項については十分伝えておったわけでございますけれども、答弁は、質問した事項についてはほとんど肝心なところでもって触れられておりませんで、この点についてはもうちょっと——ヒアリングの段階でもって項目を挙げてやった点について、きちんと答弁をしていただきたいと思います。これでは、せっかく質問しておっても、全くその答弁が答弁になっておらないと言わざるを得ないと思います。こういうことでもって慎重な審議というのはなかなか難しいと思うわけでございますけれども、私はその点についてきちんと——20号については3点、23号については5点について、ちゃんと項目を示して質問しているわけでございますから、これらについて逐一やっぱりきちんと答弁をしてもらいたいというふうに思うわけでございます。その点をまず私は再質問に当たって要望をいたしておく次第でございます。

そこでもって、その点、抜けた点については、ひとつ市長並びに部長の方からきちんとした答弁をお願いいたします。ヒアリングの中でやってあるはずなんですから、それを省略されたんでは意味がありません。

まず最初に、20号についてでございますけれども、第1点目の内容についてはわかりました。

2項、3項についてはほとんど触れられてなかったわけでございますけれども、この点については、福祉センターの建設として市民センターを整備するということでございますけれども、この整備はどの程度進んでおるかということでもって聞いたわけでございますので。そしてまた、これが今回の配食サービスの改築とどう関連するのか、この2点について再度御答弁を願います。

3点目の——福祉団体5団体ということが言われているわけでございます。市の福祉協議会、町内会連合会、民生委員協議会、母子福祉推進協議会、老人クラブ連合会、ボランティア連合会等からいろいろな陳情なりその他が出ておるということで、早急に福祉センターを建設してもらいたいということで、市長もこれについて、市民センターを整備することによって十分対応したいということを言っているわけでございますけれども、これらの団体について、こうした状況に

ついて理解が得られていないんじゃないかというふうに思うわけでございます。多くの人たちから福祉センターの問題について ― 市長の公約であり、また陳情等も出ているような中において、どうなっているのかということが非常に多いわけでございますけれども、この点についてはどうなのか、ひとつ率直な御答弁をいただきまして、多くの市民から注目を集めているわけでございますから、現況について、福祉センターの対応についての市の見解を明らかにしていただきたいというふうに思います。

それから、23号でございますけれども、この点については余り現状と変わらないということでございますけれども、これは市の姿勢なのかどうなのか、その点について私は改めてお伺いしたいわけでございますけれども。

一昨日、三上さんの方から、この2条の2号の残土として、しゅんせつ土砂並びに建設工事に伴って排出される土砂につきまして、これは改悪じゃないかという非常に厳しい質問があったわけでございますけれども、この点についてはどのように解釈したらいいのか教えていただきたい。ということは、現条例の中においては、しゅんせつ土砂と建設工事の土砂については明記されておられません。新しく改正された条例の中においてこれが入ったということは、この条例によって、どういう効力をというんですか、どういう影響が出てくるのか。特に、この7条1項の項目、土砂等の性状が周辺環境の汚染を引き起こすおそれがあるというものの対象として、一般土砂と区分して扱われるものかどうか、この点について御質問をいたすところでございます。

それからもう一点は、16条の1の ― 今、誤り、不正等のあった事項については説明がございましたけれども、しかしながら、さきの議会等で問題になりましたように、許可の期日または許可の数量をオーバーして、かなり投棄されておるといような事実が指摘されておりました。これらについては、今後調査をして、そういう面について誤りがあった場合、またその許可基準を超えておるといような場合、生じた場合にはどのように措置されるのか、この点についてお伺いをいたしたいわけでございます。

以上について、ひとつ再答弁をお願いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 質問が2点ございました。

地域福祉センターの建設、いわゆる市民センターの整備はどの程度進んでいるのか、また今後の整備はどうかという点でございますけれども、先ほど市長が答弁いたしましたとおり、今年度2階の部分の一部改修をして、機能を持たせたわけでございます。今後は、どんな機能を整備をしていったらいいか、社会福祉協議会と協議してまいりたいというふうに考えているわけでございます。

2点目の福祉関係団体5団体の理解ということでございますけれども、この地域福祉センター

の新設、市としては今のところ考えておりません。したがって、今の市民センターをいかに有効活用を図っていくかということで今まで検討してまいりました。その結果を社会福祉関係団体等に市長から説明をしてございます。平成7年度当初に社会福祉協議会、そしてその年度の福祉大会——この福祉大会は、福祉関係団体が一堂に会した年1回の大会でございますけれども、その中でも市の方針を市長から説明をしてございます。さらには、その後の社会福祉協議会の理事会——この理事会といいますのは、福祉関係団体の代表者等で構成をしております理事会ですけれども、その席でも市の方針を説明してございます。そういったことで、今後地域福祉センターにかかわるべく、市民センターの整備を図ってまいりたいという考えでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、第1点目でございますけれども、いわゆるしゅんせつ土砂、それから建設現場から派生いたします残土を区分した理由でございますけれども、特にしゅんせつ土砂につきましては、従前の土砂等という範疇に含まれておったわけでございます。特に、このしゅんせつ土砂並びに建設現場から派生いたします土壌については、汚染されている可能性があるという、そういう考え方があるわけでございます。したがって、今回は特にそういう土壌につきましては、土質基準等の適用を——検査等を厳しく進めていくというようなこと。それからいま一つ、厳しくした場合に、通常のいわゆる安全な土砂等の埋め立てにも網をかけるということはないのではないかというようなことからこういうふうにしゅんせつ土砂等を区分した、ということでございまして、しゅんせつ土砂は新たに加えたものではございませんで、従前の土砂等の中に含まれておった。こういうふうにしゅんせつ土砂等に規制をかけていく段階で区分した、そのためにしゅんせつ土砂という言葉がここに出てきた、ということで御理解をいただきたいと思っております。

それから、第2点目の第16条に関しましての御質問でございますが、期間、期日が守られないといいますか、期日が延長されるとか、それから計画土量よりも多く土砂が搬入されているのではないか、これについてのこの16条との兼ね合いでございますが、期日につきましては、正当な理由によりまして延長したいということであれば、これは期間延長の手続をとっていただく、こういうふうを考えております。それから、計画よりも土量が多いというようなことにつきましては、一応改善勧告といいますか、まずそういう手続をとりまして、これは危険だ、周囲に危険を及ぼすというような判断の場合でございますけれども、まず改善勧告をいたしまして、それでなおかつ是正されない場合には改善命令、改善命令でもなおかつ実施されなかった場合にはこの第16条の許可の取り消し、こういう処分に至る、こういうふうに私どもは考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 回数制限でございますから、最後になるわけございまして、何か要領を得ないまま質疑を終わるのはちょっと残念でございますけれども。

20号の市民センターの件でございますけれども、今の答弁でまいりますと、市民センターを福祉センターとして整備していくということについては今考えていません、こういうことの答弁があったわけでございますけれども、現状から見てまいりますと、そうじゃないかというふうな推測と客観的な判断が出されているわけございまして、明確にそのように答弁があったということでございますから、これは仕方ないというふうに思います。

しかしながら、私がそこでもって質問をしておきたいのは、去年の3月に最後の後期基本計画が出まして、立派な本ができて、全世帯に配られたわけでございますけれども、その中にはきちんと福祉センターとして市民センターを整備していくというふうに書かれておるんです。見てもらいたいんです。さっきも言ったように、小幡議員の質問については、福祉センターについては、市民センターの整備をもってこれに充てるという市長の答弁もあるわけです。その前におきまして、何人かの議員にも同じような答弁がもう二、三年前から繰り返されているわけです。私も2度質問しております。いまだにそういう状況であることが非常に高齢化を迎えた市民に対して不安を与えておるし――私は、市長の非常にすばらしい政策なので、反対するわけじゃありません。早くこの問題について対応し、措置していかないと、市長自身の信用の問題に私はかかってくると思うわけでございます。したがって、この点については市の最重要政策であるわけでございますから、まだその点については考えていませんというような状況では――こういう状況は一日も早く脱却しなきゃならないと思うわけでございますから、その点についてはどのように考えておるのかお伺いをいたしたい。再度これはお伺いします。

それから、23号の件についてでございますけれども、今の答弁でまいりますと、私は答弁のための答弁というような気がいたしまして――このしゅんせつ等については、今までの土砂等の中に含まれておって、何ら変わりがなければ、一項を改めて設ける必要はないんじゃないですか。これは非常に大きな問題です。三上議員もそういう意味でもって徹底的に質問をしていたわけでございますけれども、私はこの項目を持ったということは非常に大きな意義があると思うわけでございます。これは許可基準に照らし合わせて対象にするんだということでもって、一般の土砂と分けてやるということでもって、前向きに前進したものというふうに判断していたわけでございますけれども、今部長の答弁では、全く変わりがなく、ただ項目を離しただけだ、便宜的に。便宜的な条例なんていうものはつくらなくてもいいんです。市民のためになるような条例でなくてはならない。便宜的な条例じゃ困るんです。まして、改正案として出てきているわけですから。

この点について繰り返しますけれども、土砂等の性状が周辺環境の汚染を引き起こすおそれが

あるかどうかという点について、特にこの面は、一般土砂と分けて、許可の段階においてこれを調査する、確認するというために私はできたと思うわけでございますけれども、そうでないのかどうか、この点について。これがそうでないということになるとすれば、どういう意味でもってこの残土条例の改正案を出したのか、全く真意がわからなくなってしまう。便宜的に出されたような改正条例では、市民の期待に背くような結果になるわけでございますので、この点についてはきちんとやっぱり市民の立場に立って — 今まで多くの議員から残土条例についての質問が出されているわけでございますから、それに応えられるような改正案だというふうに私は評価しておったわけでございますけれども、今の答弁を聞きますと、何か非常に後退したような感じを受けて、残念なわけでございますけれども、再度そうした観点から、この土砂等の問題についての適用をひとつ御答弁願いたい。

それからもう一つは、今回の改正の中でもって、違反した場合等については、勧告に従わない場合については原状回復と。今までは原状に復するということがあったわけでございますけれども、今度は原状に回復するということは、非常に強い姿勢を持って原状に回復させると。この条例の改正の中でもっての問題は、違反したり、周辺に公害を及ぼすおそれが生じた場合には、ここに書いてありますように、直ちに原状回復をさせることを命ずることができるというふうになっているわけですから、ただ命じただけでもって、あとはそのままと、やりほうだいということが問題であって、この条例によっていかに原状に回復させるような — ペナルティーというんですか、させるという方法をとらなければ、私は絵にかいたもちで何もならないと思うわけでございますけれども、この点については依然として同じような答弁であるわけでございますので、この原状回復、それから改善命令、これはどの程度の効力を持つのか、現在の条例と改正条例とはどのように違ってくるのか、この点についてわかりやすく御答弁をいただきますことをお願いして、質問を終わりたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 第20号に対します答えと議員の把握の仕方が大分食い違っているようでございますので、私の方で一回整理します。

高齢者あるいは独居の方に対します配食サービス、これを始めまして非常に好評でございまして、温かい食事が楽しみであるし、次に何を食べられるか期待していますという、非常にうれしい声が届いています。その前に行いましたデイサービスで、生きていてよかった、こういう待遇をしてもらってありがとうございます、これがこれからの福祉の仕事ですねという — この2つは非常に感謝されております。それとともに、こっちからお答えしましたのは、こういう拠点として、福祉の拠点として市民センターを活用するということは明言してございます。そのとおり、その活用の方法として、今配食サービスの拠点としているわけでございます。一部、新しい立派

な福祉会館をとという声も聞いております。確かにございます。しかし、住民の多くは、今こういう時代に、そのような箱物よりも、今やっているこういう仕事をやってくださるのが政治じゃないですか、私たちに愛情を込めてくださってありがとう、こういういき方をとっておりますんで、そちらの方を優先しているわけでございまして、はっきりさせておきたいのは、市民センターを社会福祉事業の拠点としてしばらく機能させていくということでございますので、これをはっきりさせておきます。そういうことでございまして、御了解賜りたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず最初の御質問でございましたしゅんせつ土砂の件でございますけれども、これは従前の条例においても、そういう処分のために館山に持ち込まれるという可能性は十分あったわけでございます。これを、先ほどもお答えいたしましたように、特に汚染されている可能性の高い土壌ということで今回は区分をした、こういうことでございます。仮にそういうしゅんせつ土砂等の搬入計画等がありました場合には、これは前からもお答えしておりますように、現地の確認をいたします。発生場所の確認をいたします。それと、当然その土質の分析等も出していただくというようなことで、そういう汚染された土壌が持ち込まれることは厳しく抑制していく、こういうことでございます。

それから、2点目の御質問の原状に復する、回復するということでございますが、これは語意からくる意味は全く同じでございます。それと、いわゆる対応、対処の仕方でございますけれども、従前においても条例に即しまして対処したわけでございますが、新しい条例になりまして、より一層厳正に条例にのっとっての執行を心がけてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質疑を終わります。

次に、6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） 通告をいたしました議案第12号から29号までの間の11件につきまして質問をいたします。

私が通告いたしました議案につきまして、議案第12号館山市行政財産使用料条例の一部を改正する条例の制定についてから、議案第14号、15号、16号、20号、21号、22号、25号、26号、29号、以上の10議案につきましては消費税関連議案ですので、一括しての質問といたします。

消費税5%実施につきましては、私は社会民主党の一員といたしまして、私たちの声が届かなかったことは非常に残念であり、力が及ばなかったことを率直に申しわけなく思っております。しかし、一人の生活を営む人間といたしまして、あるいは家庭生活の中でやりくりをする身といたしまして、また市民に最も近い場にいる議員としまして、消費税増税問題をすんなりと受け入

れるわけにはいかないのであります。今回の消費税上乘せ分の見込額、総額で 140万円ということをお聞きをいたしておりますが、義務化もされていないことをなぜ率先してやろうとするのか、市の姿勢には非常に不満を持っております。

そこで、まず伺いをいたしますが、見込額 140万と言われますが、その内訳 ― 各項目別でも結構でございますから、どういう見積もりをされたのかを具体的に伺いたいと思います。

次に、議案第23号、いわゆる残土条例の件について伺ってまいります。御承知のとおり、県でも現在条例化に向けて作業中と伺っております。改正に向けては、当然県と協議を行いながらの作業となるかと思ひます。

そこで、従来より気にかかっている問題といたしまして、県と市の責任分担があります。従来ですと、県と市の権限がはっきりとしているはずなのに、実際は責任の転嫁がされてきていたわけですから、確かに市には市民を守る責任があるわけですから、何も責任を持たなくてよいということにはなりません。また、県と市の条例づくりの段階で競合をする場合の調整がされるのかどうか、伺いたいと思います。

また、一定の埋め立てに対しまして、業者自らに水質検査の義務づけがされますが、この際、行政側が立ち会う必要があると思ひますが、いかがでしょうか。

また同じく、土質検査に対しましても、発生場所の確認に関して、書類上の確認だけではなく、実際に行政サイドで出向いての検査はするかどうかなのか。私は、通告なしで、いわゆる抜き打ち的な検査の権限が行われるかどうかを伺いたいと思ひます。

質問は以上でございますが、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

議案第12号から議案第29号までのうち、消費税にかかわる10議案につきましての御質問でございますが、消費税は、地方公共団体の行う事業につきましてもその経費に課税されます。もし転嫁を行わないとすれば、本来サービスの受益者が負担すべき消費税を受益者以外の人が負担することになりますので、公平な負担という見地から、適正に転嫁することが必要であると考えております。

また、公営企業料金につきましても、各経費に消費税が課税されることに加えて、現実に納税義務が生じていることなどから、適正に転嫁することが必要であると考えております。

なお、各施設の使用料等にかかわります、転嫁によります増収見込みにつきましては、総務部長より御答弁申し上げます。

議案第23号に関します第1点目、館山市条例と県条例との関係についての御質問でございます

が、県と協議いたしました結果、現在県においては条例制定に向けて検討中であるが、館山市は独自に進めてくださいとの意向でございますので、先行して条例改正をしようとするものでございます。

第2点目、業者が行う水質検査に行政も立ち会うのかとの御質問でございますが、採水に際しましては、館山市も立ち会うことが必要であると考えております。

第3点目、残土発生場所へ通告なしで立入調査が可能かとの御質問でございますが、市内の発生場所であれば可能でございますが、市外の場合につきましては、通告なしでは困難かと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 議案第12号から議案第29号までのうち、消費税に係る10議案についての御質問でございますが、各施設の使用料等に係る転嫁による増収見込みにつきましては、行政財産使用料で1万5,000円、公民館等社会教育施設使用料で9,000円、社会体育施設使用料で14万8,000円、市民センター使用料で7万円、ごみ処理手数料及びし尿処理手数料で123万3,000円、水道料金で1,592万円、国民宿舎利用料金で424万7,000円でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 何点かお伺いをいたしたいと思います。

税に関してなんですが、市には今度国の方から地方消費税交付金があるわけです。率直に言って、行政サイドで行うことが——交付金をもらいながらまたもらうというのは、言い方によれば二重取りじゃないかなというような気がするものですから、非常に不満なんです。この間も答弁されておりましたが、県内では全市が今度これをやるわけじゃないですよ。たしか20市というふうに、提案されるというふうに伺っておりますけれども、自治省は指導なのか、義務を求めてきたのか、その辺をちょっとはっきり知りたいんですけれども、もし指導だとすれば、非常に失礼だなというふうに正直言って思うんです。みんなからいろんなところで集めた消費税を各自治体に返しますよと言って置いて、自治体では公共性のあるものについてもまた消費税を上乗せして取るというのが——本当にこんなことがあっていいんだろうかなというふうに正直言って思います。自治省からの通達には義務なのか、それとも指導なのか、その辺のことをはっきりお答えを願いたいと思います。

それで、この税の関連の議案の中に——26号なんですが、26号は水道関係です。これは本当に大幅な値上げが予定をされております。その上にプラス課税ということになると、水の使い控えがあるんじゃないかというふうな気さえいたしますが、これは前から議論になっているんですが、県営化に向けて——私はせんだって県内の水道料金の一覧表をいただきました。これを見まして

も、すごく — こんなにも差があるという一覧表を見まして、水に対して非常に不公平じゃないかなという、水道料金に対して非常に不公平じゃないかなというのも一面あるんです。これは考え方なんでしょうけれども、やはりこういうことは県できちんとしていくのが一番いいんじゃないかな、筋ではないかなというふうに思います。

そこで一つお伺いしたいのは、安房、夷隅関連、南房総広域水道関係17市町村で運営協議会がつけられていると思うんですが、県営化に向けての協議がこの運営協議会の中で実際にされているのかどうなのかをちょっとお聞きをしたい。そしてまた、この運営協議会の会長はだれでしょうか、それをお聞きをしたいと思います。

それと、29号の方の国民宿舎の関係なんですが、かねてより言われておりますように — これは鳩山荘の問題なんですが、非常に運営がよろしくないというようなことで常々言われているということなんですが、いいか悪いは別といたしまして、民営化に向けた議論、あるいはどうしていいかというような議論がされているかどうか、検討されているかどうか、その辺を — されているとすれば、どういった人たちでされているのかどうなのかも含めてお伺いをしたいと思います。

それと、議案第23号、残土条例の関係なんですが、ちょっと答弁がいただけませんでしたのでお聞きをいたしますが、私が一番聞きたいのは、県と市の条例との関係の中で、問題が起きたときの責任のあり方 — ここは県ですよ、ここは市ですよということがきちんと線引きされているかどうかということを知りたいというふうに思います。もちろん — 先行して市がやりなさいよという指導だそうだけれども、やはりこれをつくるに当たっては、県との協議をしていかなければならないと思うんです。そういった場合、県と市は話し合いながら行うものなのか、それとも市は独自でやっていくのか、その辺のことをちょっとお聞きをしたいというふうに思います。

そして、水質に関しては、立ち会うということですので、ちょっと私も今後 — それはそれでよろしいかと思いますので、またその他については勉強させていただきたいと思います。

土質の検査なんですけれども、市内はできるけれども、市外は無理ということですので、市外ですと立ち入り権限がないというふうなことになるのかなというふうに思いますが、常日ごろ言われているのは — 市内間でのこういう問題というのは余り起きていないんじゃないでしょうか。むしろ、一番問題になって — 条例をつくらなきゃいけないという、ここまで至ったものというのは、やはり市外あるいは県外というところからのものじゃないかなというふうに思うんです。そういったときに、事前に通告をいたしまして、あした検査に行きますと — あしたというところちょっと大変でしょうから、1週間後に検査に行きますというようなことを行った場合、一部言われておりますように、それを隠すとかというようなことが行われるんじゃないかというようなことが言われているわけです。それは確かに検査の項目とか書類上の問題がありますから、クリア

はしているというふうなとらえ方もあるでしょうけれども、やはり突然行って見てくる、あるいはそこから土を持ってくる、これは変だぞと思って土を持ってくるというようなことまでしてもいいんじゃないかなというふうに私は思っておりますが、その辺はいかがお考えでしょうか。

そして、あと一点なのですが、残土条例は館山市が前向きに改正に向けて今動いている。近隣で言うと、鋸南町が12月議会でちょっととんざしまして、今議会でどうなるかというところなのですが、やはり近隣町村あるいは県内——県でつくるんだったら、県内全市町村でこれができないと、何もならないわけです。どこかに穴があっては、そこに行くわけですから、その辺の話し合いが町村間でされているのかどうなのか、特に近隣の町村間でされているのかどうなのか、その辺をお伺いをいたしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの御質問、自治省からの使用料等への消費税の転嫁は指導か、あるいは義務かとの御質問でございますけれども、公平な負担を求めますために適正な転嫁をするようにという指導でございます。

それから、鳩山荘の民営化等の検討ということでございますけれども、国民宿舎鳩山荘に關します検討でございますが、平成8年7月に館山市行政改革推進本部の部会といたしまして国民宿舎経営合理化検討部会を設置いたしまして、今後の方向について検討を進めているところでございます。

なお、その構成といたしましては、庁内の商工観光課長、総務課長、財政課長等、5人の課長で構成する検討部会でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 議案第26号についての御質問でございますが、まず消費税につきましては、公営企業、水道事業の場合は、実際に納税義務が発生しておりますので、課税されているところでございます。

それから、南房総広域水道企業団運営協議会において県営化が検討されているかとの御質問でございますが、運営協議会の場においては、現時点では県営化について協議されてはおりません。

それから、2点目の運営協議会の会長はだれかという御質問でございますが、会長は、会員の互選によりまして、館山市長が現在その職に当たっております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 議案第23号の御質問でございますが、まず第1点目の県と市の責任分担というような御質問でございますが、現在県の方が条例制定に向けましてまだ準備中と

いうことでございますので、その内容もはっきりしないわけでございます。そういう意味で、館山市といたしましては、市で今回改正をしようとしている条例、これに基づいて市は全面的な責任を持って対応していくと。ただ、県条例ができました際に、例えば上乗せ条例、上乗せ的部分が出てくるとか、また館山市の条例以外のところで何か出てくるといような場合には、県と十分協議をして対応してまいりたい、このように考えております。

それから、第2点目の土質の検査といいますか、その立ち入りの関係でございますけれども、昨年の10月に現地を2カ所ほど私どもは見に行っているわけでございますが、非常に厳しい——すべて周りを囲ってあるとか、ガードマンがいるとかというようなことでございますが、現実的に通告をして現地に参りましても、相当広い範囲でそういう作業が行われておりますので、特に隠すというような、そういうケースは昨年の場合にはございませんでした。

それから、土を採取して持ってきて、市の方で検査というようなことでございますが、私どもの今考えておりますのは、こちらへ持ってきた段階で検査というようなことで想定をしているわけでございますが、その辺については今後検討をしてまいりたい、このように思います。

それから、3点目の近隣町村でそういうような話し合いがされていないかという御質問でございますが、先般も鈴木議員の御質問にお答えいたしましたんですが、安房の11市町村で——これは環境衛生担当でございますけれども、さまざまなそういう部門の課題について、お互いに情報交換とか協議をする場を設けようというようなことで、近々それを設立する予定でございます。その中でこういう関係のものも恐らく協議の対象になってくるのではないのかなと。今御質問がございましたように、規制の弱いところへ入り込んでいくというような、そういうケースについての市町村の話もございましたので、そういう中で協議をしていくことになろうかな、このように思っております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君）　鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君）　税は自治省からの指導であったということなんですが、どうも納得できないというふうに思います。この議案を見まして率直に思ったんですが、私たちが本当に願って要望していることはなかなかやっていただけない。だけれども、こういうことはすぐやるんだなというふうに思いました。そういうことを一言ぜひこれは言っておきたいというふうに思います。これは自治省に意見書でも上げたいぐらいです、本当に。

それで、恐らくほかの議会でも同じような議論がされているんじゃないかなというふうに思います。20市ということだと、11市が実施しない——様子を見ているのかどうかは別といたしまして、されないわけですから、その辺の市に対してはエールを送ってやらなくちゃいけないなというふうに思います。これについては、市の姿勢といたしまして、指導されたからというふうな

ことではなくて、やはり市民生活を第一に考えていってほしいというふうに、切にお願いをしておきたいというふうに思います。

それで、次に議案第26号なのですが、南房総広域水道の協議はされていないということですが、庄司市長が会長だそうですので、会長としまして庄司市長は今後、この県営化に向けた問題、あるいは水の非常に格差のある問題につきまして、率直に言ってどのようにお考えになっているのか、ぜひ伺いをしておきたいというふうに思います。

それと、鳩山荘の関係、29号についてなのですが、検討しているということなのですが、合理化という言葉は私も非常に敏感なものですから、どのようになっちゃうんだろうかと思ってすごい不安なのですが、民営化とかという話もありましたが、この間どのように努力をされてきたのかなというふうに、率直に言って一つの疑問があるんです。というのは、私は今回初めて知ったんですが、あそこで会議ができるというのを実は知らなかったんです。調べればすぐわかったことなんでしょうけれども、そういうことに至る前にほかの施設を会議で使用していたというような、事実としてそういう実態があるわけです。やっぱり啓蒙活動が足りなかったのか、その辺はちょっと私もよくわかりませんが、少なくともそういう実態があるということを指摘しながら、作業をどうするのかをちょっと見ていきたいというふうに思います。

一つそこでお聞きをしておきたいのは、いつをめぐりにこの検討を終了するのか。期限を切らないでいつまでもということはないと思いますので、それはいつごろまでにというふうに思っているのか、お聞きをしたいというふうに思います。

そして、次に残土の関係なのですが、私の言った土質検査に関してですが、土質検査に行った際に土を持ってきてなんていったら、これは逆に — 通告なしで私の言うとおりにやったら、法的に触れる部分もあるでしょうから、それはできかねるかなというふうには思いますが、何か知恵がないかなというふうに正直言って思います。というのは、昨年こちらで行かれたときは、囲ってあって、そういう感じを得なかったというような御答弁であります。実は全然違った声もあるわけです。というのは、行ってみたら、それこそガードマンがいっぱいいて大変だった — これは他市のことですが — というような状況もあるわけですから、そういうこともちょっと考えますと、そんなにガードマンを連れてきて警備を頑丈にしなくたってよさそうなものなのに、何かあるのかなと逆に疑ってしまうような状況があったというようなこともちょっと報告をされておりますので、その辺をあえて指摘をしながら、少しこれは検討していただきたい問題として一つ提案をしておきます。

そして、県との関係なのですが、実際に何か起こった場合、住民が苦情やら不安を訴えてくるのは市なんです。市役所です。そういった場合に、県とのちゃんと線引きができておらないと、やっぱり一番困った立場になるのは住民なんです。それは市の中に入った人も大変でしょうけれ

ども、市民に対しての責任義務ということを考えますと、その辺をやっぱりきちんとしておいてもらいたいというふうに思います。

近隣との関係なんですが、近々設立をする予定というふうに伺っておりますので、ぜひこれは私もお願いして、注目をしていきたいというふうに思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの御質問の中にございました水道に関する、水に関する問題でございます。

ことはおかげさまで — 雨が非常に少のうございます。1月の雨量が41ミリ、2月が59ミリ、3月のきのう現在まで 6.5ミリ、極端に少のうございます。ここ数年来水が少なくて、もう昨年の今どきは節水のお願いをしておりましたが、ことは昨年よりもさらに — 昨年は1、2、3月で 207ミリ降っておりました。ことは、3月のきょうまででございますけれども、107ミリしか降っておりません。節水のお願いをかなり繰り返さなきゃいけないんでございますけれども、おかげさまで南房総の水が参りましたので、節水のお願いはしなくてもいいというところでございます。

この話を地域に参りまして女性の方に説明しますと拍手がわきますけれども、そのかわり、お金だけは払ってもらわなきゃいけません。このお金は、九十九里水道並みのお金を払ってもらっているわけでございます。また御質問が出るんじゃないかと思えますけれども、そういうことでございます。まだ17市町村の中にはこの南房総の広域水道が入らないところもございます。一部通水という言葉を使わせています。しかし、残った方が少のうございますけれども、この早期完全給水ということをまず第一段階に置いております。その次の段階におきまして — その中に含めまして、九十九里並みの水道料金をお願いしています。その次はまたいろいろ考えている。御意見のようなことを含んでいろいろ検討中でございますが、私の立場では現在、そういう大きな含みの中にあるということだけお話しさせていただきたいと思えます。御了解賜りたいと思えます。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 26号に関連しまして、水道料金の格差が相当あるという質問でございますが、確かに水道料金はその水道事業体によって相当の格差がございます。それらを救うため、千葉県では市町村水道総合対策事業助成要綱というものがございまして、水道料金の格差是正、住民負担の軽減、経営の健全化ということで補助制度がございますので、これらを今後活用して、住民の負担を少しでも軽くしたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 鳩山荘についてはいつをめぐりに検討を進めているかとの御質問でございますが、平成9年度中を目標に検討を進めているところでございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質疑を終わります。

次に、10番議員宮沢治海さん。御登壇願います。

（10番議員宮沢治海君登壇）

◎10番（宮沢治海君） 議案第27号館山市下水道条例の制定について、議案第28号館山市都市計画下水道事業受益者負担に関する条例の制定についてに関して質疑をいたします。

ごく最近ですけれども、ある会合で庄司市長のごあいさつを拝聴する機会がありました。内容としたしましては、先ほど市長の御答弁にありましたように、この冬は大変渇水であった。しかしながら、南房総広域水道企業団——いろいろ問題はあるでしょうけれども、利根川からの通水により、安心して水を使って生活することができた。しかもさらに、今まで未給水地域であった館野、九重でも給水が可能になったというようなこと。また、館山駅橋上駅舎も、難産であるが、10、11年度で何とか完成のめども立ってきた。今まで、いすを並べたり、音響がいま一步の状況であり、ある面で使い勝手の悪かった市民センター、それにかわる場所の県立文化ホールが6月より使用可能になる。西口の区画整理も進んでいる。それぞれの場面において館山市の新しい顔が出現してきていると、大変自信に満ちたお話でした。いろいろ問題はあるでしょうが、変わってきているなというふうに考えます。さらに、公共下水道事業も進んでいると、お話があったと記憶しております。いわゆるインフラ整備と申しまししょうか、我々の市民生活におけるシビルミニマムの充実度、達成率が高まってきているかなというふうに考えることもできるかと思います。

特に、今回議案になっております下水道につきましては、下水道の普及率、これはインフラの整備を数字で比較する中において大変重要視される数字でございます。例えば、国レベルでは60%、県レベルでは47%、館山市では恐らくゼロ%というふうな数字であらわされていると思います。館山市民にとりましても、大変これは恥ずかしいというか、残念だなというふうな数字でございます。その館山市におきまして、今後その普及率が上がる、つまり一部供用がなされるということは、館山市民として大きな誇りとし、喜びとしなければいけないものと思います。供用開始が一日も早くできることを期待いたすわけでございますが、現実的には使用料ですとか受益者負担金の支払いが求められてくるわけでございます。これは当然に支払うべきものであると認識いたします。しかしながら、その算出方法、金額、支払い方法等は、広く住民、市民に知らされねばならないと考えます。また、金額もそれぞれのいわゆる受益者の負担に耐え得るものでなければならぬと考えます。

そこで、御質問いたす議案第27号では、使用料の算出方法について。議案第28号では、下水道工事の進捗状況について、受益者負担金の定義について、算出方法、他都市との比較について、下水道審議会の審議内容について。さらに、この答申に当たりまして採用された負担率が3分の1ということでございますが、3分の1から5分の1というふうな範囲で負担率が考えられる中において、3分の1が適用されたということにつきましての市長としての御所見をお伺いしたいと思います。

以上、お答えによりまして再質問いたしたいと考えます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの宮沢議員の御質問にお答えいたします。

議案第27号に関します使用料算出についての御質問でございますが、維持管理費及び処理水量を予測の上、処理原価を算出し、公共下水道の果たす役割、受益者の方々の負担、これを考慮いたしまして、さらに加えて他市町村の状況を勘案し、下水道使用料を算出いたしました。また、その一方で公衆浴場用汚水につきましては、公衆浴場の持つ公共性、汚濁負荷状況を考慮いたしまして使用料を算出いたしました。

次に、議案第28号に関します下水道工事の進捗状況についての御質問でございますが、第1期整備事業におきます平成8年度末の進捗状況は、終末処理場53%、幹線管渠51%、枝線管渠33%の見込みでございます。また、平成10年度当初の一部供用開始におきます事業の進捗状況につきましては、終末処理場80%、幹線管渠61%、枝線管渠46%を予定しております。

次に、受益者負担金の定義についての御質問でございますが、負担の公平の原則に基づきまして、事業費の一部を負担していただくものでございます。

算出方法につきましては、受益者の方々が直接接続していただく末端管渠事業費に基づきまして算出しておりまして、近年新たに設定されました市町村と同程度でございます。

下水道事業審議会の審議内容についてでございますが、審議会における受益者負担金に関する答申内容は、市民の負担を考慮いたしまして、さらなる軽減を図られたいというものでございます。

単位負担金額につきましては、公共下水道事業の果たす役割、審議会の答申、これらを考慮いたしまして、また他市町村の状況も勘案し設定しておりまして、適正な額であると考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 宮沢さん。

◎10番（宮沢治海君） ありがとうございました。

受益者負担金ということでございますけれども、今回第1期事業計画の中の、98ヘクタールの中における方々が直接的な受益を受けるということで対象になるわけでございますけれども、さらに私はもう少し幅広く考えることができないかなと思っているんでございます。確かに下水道の普及は、即その地域の方々の生活環境の整備であり、特にトイレ等の水洗化は、大変快適、衛生的な生活環境の整備になるわけでございますが、大変な喜びとするわけでございますが、それは公共下水道を持つという大きな目的と結果であることには間違いはないわけでございます。しかしながら、先ほども申しましたように、現在公共下水道事業の目的と結果において、より幅広いといいますか、厚みのある付加価値が当然に考えられるのではないかとと思うところでございます。

それは、現在終末処理場として建設がされております館山市のいわゆるクリーンセンター、これが鏡ヶ浦クリーンセンターという名称からも判断できるのではないかと考えるところでございます。私どもが館山をPRするとき、花と海と緑、もしくは太陽というふうにPRいたすわけでございますが、この海が汚れてしまっているのが現実ではないかと思えます。館山市の顔である鏡ヶ浦が大変汚れて、誇りにできなくなってしまったというようなことが何年来かのことであるかなと思っているところでございます。何とかこの鏡ヶ浦をきれいにしたい。館山市の顔であるこの海をきれいにしたい。そして、市民も楽しみ、また夏場、一年じゅうを通して訪れる——海水浴というか、そういった方も含めて気持ちよく過ごし、泳ぎたい海にしたいというふうな要望もあったかと思えます。その大きな目的のためにこの公共下水道というものを考えられたのも事実ではないかと思うわけでございます。

そういった場合におきまして、確かに生活環境——いわゆるハエとか、そういうのがなくなるというふうな受益者もあると思いますが、この鏡ヶ浦がきれいになったり、観光客が多く来るということは、館山市全体にとりましても大きな受益に当たるというふうに考えられるのではないかと思います。また、最近ですと、公共下水道の整備が若者の定住化を促すといった側面もあるというふうに聞いておるわけでございます。ですから、受益者負担金の公平化といった場合においても、この受益者というものをもう少し幅広く考えることはできないかというふうなところでございますが、いかがでございましょうか。

また、次に金額の考え方についてお伺いいたします。いわゆる受益者負担金の決定については、公共下水道を供用開始したり、または建設しているところの他都市、団体との比較をしながら決めるというのも大きな根拠の一つであるというふうにお聞きしました。理解いたしました。またさらに、その負担率の中におきまして、3分の1から5分の1が適用されるということも大きな一つであるというふうに理解をいたしていたわけでございます。そういった場合において、たゞいまは平均であるというふうな、他都市と同じぐらいというふうなことをお聞きいたしましたが、

どうなのかな、平均をとらなくてもよいのではないかなというふうな考えもできる。もちろん高いところを見れば、幾らでも高いところはあります。しかしながら、ごく最近館山市議会で視察を行いました東海市では、平成2年で370円というふうないわゆる負担率でございます。そしてまた、一昨年行きました小樽市におきましては、これは金額ではなくて、負担率が5分の1というふうなことも考えられるわけでございます。いわゆる比較対象と同時に、どれをとるかというのが館山市の市長の姿勢ではないかと考えるところでございます。

では、現実にまだ難しいなと思ったのに、こんなことも考えられないかと思うことを言っています。千葉県内では、34団体が下水道事業を実施しているわけでございます。しかし、県南2市8町1村では、下水道事業を実施しているのはこの館山市だけであります。やはり膨大な費用がかかる、年月がかかるということで、なかなか取り組めないのは想像にかたくはない。実際にそうだろう、難しいかと思えます。その先進地である、リーダーシップをとるべき館山市が下水道事業に取り組んだということは、市民としても喜びであり、地域にとっても大変素晴らしいことではないかと思うわけでございます。しかしながら、この館山市において、事業の実施、供用の開始に当たり、負担金という場面におきまして、大変に市民に受け入れにくいものといえますか、そういったものを設定された場合において、今後他市町村で実施する場合において、やっぱり大変なんだなと。先ほど申しましたように、根拠の一つが他市町村を考慮しながらとなった場合において、いわゆる受け入れやすい負担金でやっておけば、他市町村も事業に取り組みやすいのではないかと考えられるのではないかなというふうなこともどうかなというふうに思うわけでございます。

さらに、この館山市におきまして今回負担金の対象となるのは、いわゆる負担区というのは、全事業の10分の1の98ヘクタールでございます。10分の1が負担区でございます。しかしながら、あと10分の9が事業としては残るわけでございます。そうしますと、10分の9が残る場合におきまして、この負担金の基準となるのは、当然に答申に出ている600円、3分の1ということでございます。当然によく知らせれば、御理解はいただけるでしょうけれども、より受け入れやすい負担金の額になれば、この10分の9の事業を実施していく上において、さらに住民の理解と協力が得られるのではないかと。そういうことで、その負担金の額ももう少し考えられるのではないかと。ということでございます。つまり、その金額につきましては、云々という算出方法があるでしょうけれども、最後にきましてその負担割合——3分の1から5分の1としたわけですから、これを4分の1にしたかどうかというふうな具体的なものは考えられないかということでございます。では、その4分の1にした場合、具体的に——受益者負担金からそれが除かれるわけでございまして、具体的に金額としてはどのくらいになるのかどうかということもちょっとお聞きしたいと思えます。

以上、お答え願いたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、受益者の負担金の考え方でございますが、受益者負担金制度は、先ほど市長が御答弁申し上げたとおりでございますが、下水道事業によって受ける利益者に対しまして、建設費の一部を、一度限りでございますが、負担をしていただくということでございます。したがって、利益を受けない方々から負担をいただくというようなことは、この受益者負担の公平の観点から好ましくない、このように考えておる次第でございます。

それから、県内の状況ということでございますが、県内の状況を見ますと、対象事業費や設定年度だとか、あるいは土地の形状による建設単価の違いなどから、単価が一律になっていないのが現状でございます。館山市の場合は、これは国の機関でございますが、下水道財政研究会の提言を受けまして、一般的に県内の市町村が採用しております末端管渠の費用の一部を負担していただく方法をとった結果となったわけございまして、最近設定されました 600円から 700円の単価を参考に設定いたしましたので、この館山市の金額だけが今後とも中心になるというようなことは考えられないんじゃないか、このように思っております。

それから、負担区の問題でございますが、これから第2、第3と負担区が変更になった場合ということでございますが、最初の金額が基準となって上乘せされる可能性があるため、当初は低目に設定すべきというような、そういった御意見かと思えます。これは、受益者の単価を設定するに当たりましては、各負担区にかかわる末端管渠の建設費用を基準に設定するために、当初設定されました 600円の単価を基準に算定するものではございません。

それから、この 600円の単価をさらに4分の1に引き下げたらというようなことでございますが、第1負担区は、単純に計算した結果、1,961円の単価——これは汚水の処理原価でございます。しかし、最近設定されました県内の単価では、先ほども申しましたように、600円から 700円を参考に、また制度導入されました34団体の平均では、負担率3分の1というようなことで、平米当たり 650円というような設定をしてございます。またさらに、下水道事業審議会の諮問を受けまして、今回50円の軽減を図って、最終的に 600円というふうな単価にしたわけでございます。したがって、住民負担を十分考慮した単価である、このように思っておる次第でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 宮沢さん。

◎10番（宮沢治海君） ありがとうございます。

600円が高いかどうか、算出方法があるわけでございますけれども、大変議論があるところではないかと思いますが、この算出方法の中に他都市の額を考慮する、また3分の1から5分の1ということがある場合においては、多分にその市の姿勢が問われる場面もあるんじゃないかなと

考えるわけでございます。

具体的にお伺いしていきます。下水道が供用されますと、当然にその地区の住民といたしましては排水設備の変更や水洗トイレの設置が必要となるわけでございますが、その法的なものの規制はどのようになるのかということと、やはりそれを変更する場合におきましては各家屋、各世帯で費用がかかるわけでございますが、その費用はどのくらいに算出できるのかということ。

次に、やはり使用料がかかるわけでございます。これは使用水道の量に応じて下水道の使用量が決定されると理解させていただいたわけでございますが、現在における平均的な世帯の一月において使用する水道量が出てくると思いますが、それを判断して、下水道の一月の使用料は幾らぐらいになるのであろうかということ。また、その算出根拠になる下水道の使用料金は、他都市との比較ではどのくらいなのかということをお聞きしておきたいと思います。

さらに、ただいまの負担区の割合で、末端管渠工事費の違いにより、その負担率が違ってくるというふうなことから、今回の 600円という中におきましては、いわゆる基準となりました末端管渠工事費も、10、11、12年度におきましては、これは計画事業費でないかなと思っているわけでございます。その辺のところの算出をもう少し考えれば、もう一考できる要素があるのかなというふうに考えることと、下水道審議会の方で 650円を 600円にしたという中におきまして、軽減を図るという措置がとれるのか。しかしながら、もう一度軽減措置を考えたらどうかというふうな意向があったというふうに考えますものですから、さらなる御検討をまたお願いをいたしまして、質問を終わらせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず、県内の市町村の下水道の使用料の状況でございますが、処理方法及び処理水量が違いますので、一概に比較はできません。しかし、近年供用開始されました市町村の使用料は、これは平均でございますが、館山の場合もこれに当てはまるんじゃないかと思いますが、1カ月当たり平均 — この館山、北条地区では、1世帯当たり2.49人、これが1世帯当たりの平均でございますが、これに1人当たりの使用量0.34立方メートルを掛け、さらに 365日を掛け、12カ月で割りますと、1世帯当たり25立米、これが — 平均的な家庭で、今の実績から推して、1世帯当たり25立米。こうなりますと、1カ月当たり25立米で 2,750円という形になります。これは、最近供用開始されております市町村を見ますと、1立米当たり 110円ということでございますので、この金額が適当であるんじゃないだろうか、このように思っております。

それから、設備工事がどのくらいというようなことでございますが、1世帯当たりの平均は48万円から62万円程度かかるんじゃないだろうか、このように思っております。

それから、11年から12年のときの負担区は、またその金額が上乘せになるんじゃないだろうかということでございますが、これは12年を目安にした末端管渠費を見てございますので、そういう

ことはございません。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で10番議員宮沢治海さんの質疑を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時45分 休憩

午後 1時00分 再開

◎議長（山中金治郎君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告しました諸点についてお尋ねいたします。

議案第11号、館山市職員給与条例の一部改正についてであります。58歳以上の職員の昇給期間について延伸しようとするものでありますが、58歳以上になると、なぜほかの職員に比べて昇給期間を延長することになるのか。その合理的な理由は何かあるのでしょうか。年齢による昇給差別というのは違憲、違法とも考えられるわけですが、いかがお考えですか。

この条例改定について、事前に市職員組合との協議ないし承認はあったのでありましょうか。いかがですか。

また、このような年齢による昇給期間の差別的な条例の実施状況、これは県内他市と比べてどうなっておりますか。

次に、議案第23号、館山市土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例の一部を改正する条例についてお尋ねいたします。環境汚染を予防するために、残土の性状に関する規制をするとのことですが、規則で制定する許可基準はどのように検討されておりますか、御説明ください。例えば、目で見てもコンクリ片やビニール類が混入しているケースなどというのはわかりやすい例ですが、実際に問題になりやすいケースと思われるが、この場合どのようになりますか。

次に、一昨日の一般質問でも、神余の産廃のケースですが、不法投棄の問題が指摘されておったところでございます。大変な問題かと思えます。環境を守るために、山間部などでの違法、不当な投棄を防止し、条例の実効性を確保するための監視体制の強化は、どうしても必要になる課題ではないでしょうか。行政と連携した環境監視員などの制度が必要になるのではないかと思います。この点についてどのようにお考えでありますか。

次に、条例の施行日が6月1日ということとなっておりますが、先ほどの御答弁でも、業者に対する周知期間ということもありますが、それはまた逆に、それまでに申請したものについてはこの条例の適用は受けないこととされているので、いわゆる駆け込み申請という問題が予測され

ますが、これにはどのように対処なされますか。

次に、議案第26号、館山市水道事業給水条例の一部改正についてであります。水道料金をおよそ30%値上げするわけでありましたが、値上げの論拠とされます水道原価の見込みは幾らですか。

平成7年度決算では、市営水道の水道原価は164円余にすぎません。水道原価のアップの理由として、南房総広域水道の受水費、第3次拡張事業による減価償却費及び支払利息の3点をその理由に挙げているわけでありましたが、それぞれの原価アップの内訳は幾らになりますか。

次に、南房総広域水道の受水費について、幾らになっているのか、具体的にお示しをいただきたいと思います。また、なぜその金額になっているのか、その算出根拠についても御説明をいただきたいと思います。

次に、一昨日の一般質問で指摘いたしました、南房総広域水道は、平成12年度で日量5万トンの水量を必要とするという想定のもとに計画されたものでありますが、その想定的前提になっているものは、平成元年から10年までの間に人口がこの地域で9.9%伸びるとか、1日1人当たりの水量が700リットルにと、現況の2倍以上になるとか、リゾート開発で相当の水需要が出てくるとか、今となってみれば、外れだらけの予測の上に立っております。計画時点と現時点とは必要水量の見込みが大きく違って来たというのが実際かと思うのであります。平成12年度の実際の見込み水量の修正が当然必要になっているものと思うのであります。どのようにお考えでありますか。

議案第27号、館山市下水道条例についてお尋ねをいたします。先ほどの宮沢議員の御質問とダブルすることになるところもございますが、御容赦願います。

下水道使用料の基本的な考え方はどうかということについてお尋ねをいたします。基本使用料として、10立方メートルまでは1,050円を、その後、使用水量がふえるに従い、立方メートル当たり110円から180円にまで高くなっていく料金を負担することになるわけでありましたが、そもそも下水道料金の使用料金はどのような考え方で、何に基づいて算出されておるものでしょうか、御説明をいただきたいと思います。

次に、一般的な家庭の下水道使用料金の県内との比較はどういうふうになりましょうか。館山のこの条例では、一般的な家庭の平均的な料金は2,500円から3,000円程度になるのかなというふうに思われるわけでありましたが、県内の下水道料金と比較してどのような水準というふうに理解できますか。

次に、第15条の使用料の算定では、水道使用量をもとに汚水量を算定することが基本となっているわけでありましたが、水道水の場合は、そのメーターで汚水量を特定できるかと思いますが、水道以外の汚水の下水道利用については、その対応に応じて市長が認定するとしていますが、その汚水量はどのように調査をし、認定をするものでありましょうか、お聞かせをいただきたいと

思います。

次に、議案第28号であります。館山市都市計画下水道事業受益者負担に関する条例についてお尋ねをいたします。第2条では、受益者とは公共下水の排水区域内の土地の所有者と定義をしているわけですが、土地を持っているだけでどのような利益を受けることになるのか、公共下水道の受益者負担とはどういうことなのか、なかなかこれは住民の方にとって理解がしづらいところかと思しますので、わかりやすい御説明をいただきたいと思います。

都市計画法の受益者負担金では、受益を受ける限度内で、その一部を負担させることができる規定されているわけですが、条例案は受益者負担金を平方メートル当たり 600円としております。土地所有者が受ける利益はどのように算定をされ、どのように一部負担金を算出されたのか、その算定根拠について御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

議案第11号に関します第1点目、年齢によります昇給延伸についての御質問でございますが、均衡の原則に基づきます合理的な理由によるものでございます。

第2点目の職員組合の合意はあるかとの御質問ですが、従前から実施しているものでございまして、特に勤務条件の変更ではございませんので、協議はしておりません。

第3点目の他市の状況はどうかとの御質問でございますが、県内31市のうち29市が延伸措置を実施しているところでございます。

次に、議案第23号に関します第1点目、残土を規則で規制する許可基準についての御質問でございますが、土砂の性状に関します基準と構造に関する基準を考えております。また、コンクリート片などの混入につきましては、明確な基準がございません。数字での表現は難しいことですが、個々の事例を重ねながら対応してまいりたいと考えております。

第2点目、監視体制についての御質問でございますが、市職員によりますパトロールを実施するとともに、監視員制度につきましても今後検討してまいりたいと考えております。

第3点目、施行日についての御質問ですが、改正条例の内容を周知するため、施行日を6月1日としたものでございます。

最後の残土の駆け込みにつきましては、現行条例で対応しながら、ケース・バイ・ケースで慎重に処理していきたい、こう思います。

次に、議案第26号に関します第1点目、給水原価についての御質問でございますが、平成9年度から11年度までの料金算定期間内の給水原価は 297円21銭の見込みでございます。

第2点目、南房総広域水道企業団からの受水費、第3次拡張事業によります減価償却費及び支払利息の原価の内訳でございますが、それぞれ97円91銭、24円48銭、19円39銭、この見込みでございます。

次に、第3点目、南房総広域水道企業団からの受水費でございますが、1立方メートル当たり193円63銭で、九十九里地域水道企業団の供給単価と同額でございます。

第4点目、南房総広域水道企業団の供給水量と実際の需要についてでございますが、責任水量制を採用しております。

次に、議案第27号に關します第1点目、下水道使用料金の基本的な考え方についての御質問でございますが、下水道施設の維持管理費並びに資本費の一部を負担していただくものでございます。

第2点目、一般的な家庭の下水道使用料金の県内の比較についてでございますが、近年供用開始されました市町村と同程度でございます。

第3点目、水道以外の下水道利用の調査についてでございますが、使用者本人の申告によりまして、認定基準を設け、使用水量を認定いたします。

議案第28号、その第1点目、受益者及び受益者負担についての御質問でございますが、受益者負担とは、負担の公平の原則に基づき、事業費の一部を負担していただくもので、土地の所有者または土地に対する権利を有する方をお願いするものでございます。

第2点目、負担金の算定根拠についてでございますが、第1期事業にかかわる末端管渠事業費から道路、公園等公共の用に供している土地にかかわる面積及び事業費を差し引いたものを受益面積で除したものでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 議案第23号の残土の条例の關係でお尋ねいたしますけれども、性状と構造に關する基準を考慮されるということでありまして、こういう話も聞いているものですから。端的な例であれですけれども、残土の埋め立てをするに当たって、ユンボでもって大きな穴を掘って、そこにやばい残土をばんばん入れてしまう。その上にきれいな残土を入れておくと、これはうまく抜けられる。こういう脱法行為みたいなことをやる業者があるという話も耳にするんですが、そういうことだと、性状を調査といっても、上っ面をやってもわからないということになってしまうんです。だから、この調査というのも結構大変なことなんだなというふうに思うわけなんです。山になっちゃいますと、その山の一番下のところに実は汚染残土があるなんていう場合は、そこを調べないことには最後までわからぬということになってしまうものですから。

そういったしますと——端的な例で大変恐縮なんですけれども、館山港に残土を持ってきていま

すよね。そういうところで抜き打ち的に見るということとはできないものなのかどうなのか。一応こういうところに埋めますよという申請が出ているんだけど、残土で埋め立てられた時点だけではなくて、埋め立ての経過地点においても市内の場合には性状の調査をするという、そういうことができればもっと安心できるのかなと。また、比較的やりやすいんでないかなと、実際問題として。そういうことはこの条例では全然考えていないのかなと。あるいは、そういうことはやりようによってはやれるというふうになるのかどうかということなんです。

それから、環境監視員については、前向きに御検討いただけるということで、ぜひお願いをしたいんですけども、山の中というのはなかなか歩く機会がないんです。ですから、山によく入る人といいますか、そういうことを結構習慣にしているという、大体山芋を掘りに行くとか、そういう人なんか——よくその時期になると行くとか、そういう方が意外にいろんなことを知っていて、あそこにえらい不法投棄があるよとか、あるいは夏の時期になりますと蛭を見る会をやっている人だとか、そういう環境に対して非常に関心のある人を広く——環境ボランティアといいますか、そういうことで広く組織して、クリーン・アンド・ビューティフル運動ということもありましたけれども、そういう中でも非常に多くの人たちが参加できる——その人の持っている持ち味を生かした形で環境浄化に参加するというようなことでは、環境ボランティアなんていうのは今ナウい——ナウいなんていう言葉は今もう使わないんですかね——あれになるんじゃないかなと思いますので、そういうアイデアもぜひお考えいただいて、お願いをしたいと思います。

そういう点で、環境ボランティアなんていうのも——公募ということで、市の今までの手の平だけじゃなくて、市民一般に広く公募しながら大きく声をかけていくという、それがまた市民の環境への関心の一つのきっかけになるんじゃないかなと思いますので、その辺いかがですか。

それから、この条例の周知期間と駆け込み申請、これはなかなか難しい問題もあろうかと思うんですが、まさにケース・バイ・ケースということでしか考えられないし、今のところそういう御答弁しかいただけないのかなと思います。余りにも常軌を逸しているというようなことがあれば、それはすぐに対応できると思うんですが、かなりやはり微妙なところですか何かという問題もあろうかと思います。ケース・バイ・ケースということで、できる限り市としての対応を、環境を守るということでの積極的な対応をお願いしたいと思います。

それから、26号でありますけれども、水道事業のことですが、今回の値上げの大きなコストアップの内訳では、97円91銭、これが南房総広域水道の受水費にかかわる分というふうなことで、やはりこれが一番大きいといいますか、今回のコスト面から見た点では、改めて南房総広域水道がコスト的にかなり大きな影響を及ぼしているということがこの数字からわかりました。

確かに市長さんは先ほどおっしゃられました、午前中。見込み違いというのは、渇水も見込み違いで、こんなにひどい渇水になるというのも見込み違いでしたから、その分では救われたとい

うことに結果ではなるんですが、確かにそれはそのとおりだろうと私も思います。そういう点では、南房総の広域水道の水が来ていたからこそ、給水制限なり、そういったものをせずに現行きているという意味で、非常に大きな役割を果たしたんだということはそのとおりだと思います。

それで、責任水量制ということで、平成12年度で5万トンのうち1万2,000トンが館山、その他——館山が大体全体の2割強ですか。それぞれの水道事業体に割り振りをして、責任水量制ということで、とにかく水を使おうが使うまいが、そういうことに構わなく、実際おたくのところはこれだけ引き受けてくださいよというのが責任水量制ですから、もともと足りているところにとっては、それだけの水需要が出てこなかったとなると、この責任水量で引き受けた分がもろに財政負担になってしまうという点で、この責任水量制というのは非常に大きな問題を抱えているし、他の市町村からは本当に恨み言がたくさん出てくるんじゃないかなというふうに思うんですが、そこで実際、平成12年度にということで使用水量の見込みを算定した基礎、ここはもう大幅に狂っちゃったんだけど、今これに手をつけると大混乱してしまうという意味で、手がつけれないというのはわかるような気もするんだけど、そういう意味でこの水量については手をつけないという状態にいるというふうな理解をした方がいいのかなと思うんですが、実際はもう既に水量の見込みは大幅狂いだ、これはもう間違いないと思うんです。その辺についてはどういうふうにお考えになっておるのか。見直しをするんだとすると、どういうふうにやろうとするのか。しないならばしないということなんでしょうけれども、どういうふうに見ていますか。

それと、責任水量制というのは、私は県内では余り聞いていないものですから、他県の状況の中で責任水量というようなことを聞いておりますけれども、千葉県の中で責任水量制をとっているところというのは実際あるかどうか。そういうところがあれば、具体的にお示しをいただきたいと思います。少し調査をしてみたいと思いますので、具体的にお聞かせいただきたいと思います。

それから、下水道条例の問題でありますけれども、先ほどの宮沢さんの質問とダブっちゃったものですから、ちょっと違う視点からお尋ねしますけれども、料金の体系についてお聞かせください。料金体系が——基本使用料は10立方メートルまでという決め方をしていますけれども、これは例えば1立方メートルしか使わなくても、あるいは全くゼロだとしても1,050円ということですよ。水道の場合には、基本料金ということと、それから基本料金とは別に使った量というふうな、それを分けて考えられているんですけれども、ここでは基本料金という中に10立方メートルまでというふうな区切り方をしていますけれども、これはどうしてそういうふうになさるのか。例えば、1カ月、2カ月全然利用しないと——何かの事情でいないというようなケースの場合は全然使わないわけですが、こういう決め方だと、基本料金だけは取られますよと。基本料金といっても、要するに10立方メートルまでは取っちゃいますよという形になるものですか

ら、ちょっと不合理が出てくるのかなという点です。

それと、料金の体系としては逓増制になって、量が多くなると単価が高くなるという — これは水道のシステムと同じ逓増制をとっているわけです、考え方は。それで、水道の場合には、水道の使用を抑制するというような意味から料金体系も逓増制をとっていたというふうに思うんですけれども、下水道の場合には、どうしてそういう意味では逓増制という考え方が出てくるのか。この辺はどういうことなのか。下水道の使用抑制という意味では考えにくいなと思うものですから、どうしてそういう料金体系になるのか、御説明をいただきたいなと思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 議案第23号の御質問にお答えいたします。

まず、最初の御質問にございました、穴を掘ってそこに廃棄物なり有害なものを埋められるというような、そういう話もあるというようなお話でございます。確かにその場合の現場のチェックというのは非常に難しいわけでございますが、本来はこれは業者のモラルにかかわる問題であるわけでございますけれども、その辺の認識をきちんと持っていただくような、そういう方法、それと何らかの形でチェックできるような方法がないかどうか、これらを検討してまいりたい、このように考えております。

それから、土質の検査でございますけれども、限られた回数の中でいかに大きく網をかけるかというようなことを考えているわけでございます。その一例としましては、広い範囲の数カ所から土を採取しまして、それで分析をしていただく。異常なものが出たら、再度細かにまた分析をするというようなことで、なるべくそういう土壌のチェックに努めていきたいな、このように考えております。港に揚がりました土質の検査というようなことも一応視点に入れてまいりたい、このように考えております。

それから、2点目の監視員の制度でございますが、これは残土だけに限りませんで、廃棄物等の不法投棄 — 先ほど御質問にございましたように、神余でのものが出てきているわけでございますが、そのほかにもあるというようなことを聞いております。そういう意味で、行政だけではなかなかカバーし切れない部分もあらうと思います。そういう意味で、やはり住民の皆さんのある部分での御協力をいただくということも当然これは考えていかなきゃいけないな、このように考えておりますので、今後そういうふうな方向でそういう制度の確立に向けて進めていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 議案第26号に関しての御質問でございますが、まず南房総広域水道

の水量見込みに計画時と変更があって、今後どうしていくのかということでございますが、確かに先ほど人口が 9.9%伸びるという予測がされていたというお話もありましたが、人口というか、給水人口が 9.9%伸びるだろうという予測がありまして、これは館山市の拡張区域、それから大原町とか鴨川市とかで拡張した、そういうものも含まれている数字でございます。ただ、全体的にそれを含めて 9.9%になるかという、そこまではいかないと思います。今後どうするかということでございますが、現在のところは各事業体、末端受水団体、末端給水事業体、これらの既存能力の調整の中でというふうに考えております。

それから、責任水量制についての御質問でございますが、県外では兵庫県とか新潟県とかあるようでございまして、千葉県内では、全体を責任水量制という方法ではございませんが、2部料金制で――固定費については責任水量、あと使用水量に対してという2部料金制をほとんどのところが採用しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 料金体系ということでございますが、まず基本料金制と、それから御指摘のとおり累進の使用料金制というふうなことでとってございます。まず、基本料金制につきましては、下水道事業の経営の安定を図るためにこのような基本料金制度を設けるということでございます。それから、累進制度は、污水处理に関する原因者負担の強化ということで、大量排出の抑制だとか、あるいは水資源の節約を図るというようなことから、今後の維持管理に役立てたいと。こんなような形から、このような料金体系、使用料体系をつくったわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

植木さん。

◎12番（植木 馨君） ただいま神田議員の方から残土条例の一部を改正する御質問がございましたけれども、それに対しまして関連質問をさせていただきます。

2点ほどございますけれども、先ほど御答弁の中で、県条例について、県は今この制定について検討中ということで、館山市の方はどうぞお先にしてくださいというような、そんな御回答がございましたけれども、その中で上乗せ部分が出たら、要するに県と協議して行うという、この上乗せ部分がどういうところであるかお聞きしたいのと、それから、11条、12条、14条、15条ですか、こういったものに違反した場合、厳しい措置が今度の条例の中に出ていないわけですが、違反して、それで命令という言葉を使ってどうか知りませんが、一応措置の命令を講じた。だけれども、それにどうしても従わなかった場合にはどういう措置をとるのか、この

点をひとつ — 2点だけお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、最初の御質問でございますが、御質問のとおり、県条例は今県の方で制定を進めている、作業を進めているわけでございますが、まだ今の段階で上乘せというような部分は見えていないわけでございますが、例えばということでそういう部分が出てきたときには、市の条例との整合といいますか、そういうものが出てまいりますので、県の方と協議をしていく、こういうことでございます。

それから、2点目の御質問でございますけれども、いわゆる違反した場合ということでございますが、違反した場合には、改善勧告、改善命令、停止命令、さらには許可の取り消しというような一連の手続があるわけでございますが、それ以外に罰則につきましても、従前の条例よりも強化したものが今回の条例には御提案してございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 植木さん。

◎12番（植木 馨君） 違反してどうしても従わない場合、これは警察か何かの方向へと今度は展開していくと思いますけれども、そうしますと、やはり告発というような、そういうことも考えていかなかったらこれを防いでいられないというふうに考えますけれども、その点どうお考えになっておるか。

もう一つ追加させていただきますけれども、先ほど神田議員の方から監視員の件についてお話がございましたけれども、これは残土の問題にしても、産業廃棄物にしましても、監視員というものはどうしても未然に防ぐためには必要になってくるわけです。ですから、でき得れば、広範囲にわたってただボランティア的にやっていただくというよりも、市長がやはり監視員というものを委託して、神戸なら神戸に何名とか、豊房何名、西岬何名とか、各地区を考えまして、その中に監視員を任命しておくというような、そういうことで監視体制をとっていったらば、これは非常に充実した監視体制がとれるんじゃないかなと。それで、やはり年に2回か3回監視員を集めまして地域の状況をお聞きするとか、そういうふうなことで、また今後も監視体制を厳重にひとつやっていただきたいという感謝の意を込めた、そういう打ち合わせ会をやるとか、そういうふうなことでやっていかないと、なかなかこの問題は解決していかないんじゃないかな、そういうふうに思いますけれども、その点どう思いますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、最初の御質問の告発等についてのことでございますが、今回の条例改正に当たりましては、特に罰則等の規制につきまして、そういうことを想定いたしまして、検察庁と協議が調っております。協議をいたしてございます。

それから、監視の件でございますけれども、これはやはり効果的、効率的な、そういう監視体制がとれるように検討してまいります。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） ほかの議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第9号乃至議案第12号並びに議案第14号乃至議案第30号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第2、議案第13号財産の取得についてを議題といたします。

本案は、地方自治法第117条の規定により、土地開発公社の理事、監事であります宮沢治海さん、鈴木忠夫さん、日下君敏さん、石井昌治さん、川名正二さんの退席を求めます。

（10番議員宮沢治海君退場）

（16番議員鈴木忠夫君退場）

（18番議員日下君敏君退場）

（19番議員川名正二君退場）

（23番議員石井昌治君退場）

質疑応答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 通告した事項について、5点御質問を申し上げたいと思います。

このウエルネスリゾートパーク計画の用地取得につきましては、当初予算におきまして1億3,926万円が計上されているわけでございます。今回の提案は、これに対しまして、9,667万円の予算において開発公社でもって土地の取得がなされたので、館山市でもって買い戻しをしてもらいたい、こういうことでございますけれども、予算と執行に4,259万円の残を生じたわけでございますけれども、この理由と、内容についてどういうものか、お聞かせをいただきたいと思います。

す。

2番目に、この土地の取得単価は平米当たりどのぐらいに、何円ぐらいになるのか、教えてください。また、その価格の決定はどのような手続を経て決定されたのか、具体的にその経過を説明していただきたいと思います。

それから、平成3年よりこのウェルネス計画の土地の購入が始まったわけでございます。しかし、この間に2度にわたりまして土地評価額の変更がなされております。また、リゾートブームの昭和60年代には土地ブームを起こしたわけでございまして、この平成3年時はまだかなり高いブームが残っておったわけでございます。最近の状況によりますと、このウェルネス地域の土地取引の時価は半分以上下がっているということを専門業者等から聞いておりまして、半値でも売ればいい状態だというふうな状況にあって、大変厳しい状況にあるようでございます。したがって、このような土地評価額並びに時価相場というものを考慮して今回の購入価格において処理されたのかどうか、そこら辺について、その結果を教えてくださいというわけでございます。

4番目に、平成7年度末でもって全体の51%の土地の買収が終わるということを予算委員会で秋山議員の御質問に対して答弁されているわけでございますけれども、今回の購入によりまして、全体の何%の購入が完了するのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

5番目に、土地の購入は、当初の計画でまいりますと、平成3年から11年というふうになされておるところでございます。それで、これにつきましては、最近の議会の中での説明の中でもって、平成11年が土地買収の目標だということを言われておるわけでございますけれども、となりますと、今後3年間で目的を達成しないとならないわけでございまして、今の段階で50%台のものがどうなるのか、ここら辺の見通しについてどのようにお考えになっておられるのか、この点についてお伺いをする次第でございます。

以上5点について御答弁をお願い申し上げます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第13号財産の取得についての御質問でございますが、用地の取得につきましては土地開発公社に委託しておりまして、公社が取得した年度の翌年度以降に複数年をかけて買い取っております。したがって、予算に計上されております公有財産購入費につきましては、過年度取得にかかわる土地に関する買い取りでございます。

2点目として、取得単価につきましては、1平方メートル当たり 3,025円及び 7,000円でございます。また、単価の決定につきましては、不動産鑑定価格をもとに決定いたしました。土地売

買契約につきましては、先行取得を委託している土地開発公社と毎年度末に契約を締結しております。

3点目、用地取得単価につきましては、各地権者に提示してございますので、今後とも同一価格で取得を進めてまいりたいと考えております。

4点目、用地取得率につきましては、現在55.3%でございます。

5点目、用地取得の今後の見通しにつきましては、地権者の御協力、御理解をいただきながら、できるだけ早い時期に完了させたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 再質問をさせていただきたいと思います。

今回提出されました説明資料によりますと、その図面は本当にサバガリ状態の買収状況でございます。この図面を見る限り、現地調査はしておりませんけれども、MANGA共和国なりスポーツ王国なり、そうしたウエルネス計画が進められるのかどうか、本当に疑問でございます。そして、平成3年以来50%の土地の買収が進んでいるわけでございますけれども、今回のこの土地買収について、1億5,000万円の予算を持ちながら9,600万円に終わったということについては、何人かの買収交渉が不調に終わったということが言われているわけでございますけれども、今の段階になって55%の買収率の中において、このように買収が進まないということについては問題があるんじゃないかというふうに思うわけでございますけれども、そうした問題点はどこにあるのか、我々議員も協力していかなきゃならないわけございまして、この際お伺いをしたいと思います。

それから、今市長の答弁にございましたように、2,000万円以上の土地の購入は館山市の財産管理審議会にかけられることになっておるわけでございますけれども、この点については、毎年その都度財産管理審議会にかけられておるのか。今回のこの取得についても、この条項が適用になって、財産管理審議会にかけられたというふうに思いますけれども、かけられたのか、かけられていないのか、そのかけられた結果に基づいて今回の値段が提示されたのか、その点についてお伺いをいたしたいわけでございます。

今の市長の答弁でございますと、不動産の鑑定に基づいて価格を決定しておる、こういうことでございますけれども、この財産管理審議委員の中には、土地家屋調査士または不動産業の資格者等、専門委員は何人ぐらい含まれておるのか、その構成について、その内訳を若干教えていただきたいと思います。

それからもう一つは、今の答弁の中でわかったんですけれども、あらかじめ地権者に値段を提示してあるからということでございますけれども、提示してあるから、私は非常に難しいと思い

ます。市長の立場にしても、市の執行部にしても、値段が下がったから下げてくれという、こういうわけにはいかないだろう。そういうことをすれば、買収が全く進まなくなってしまって、この計画はパンクしてしまうというような状況に追い込まれるんじゃないかという心配はされます。その点については、私は本当に大変だろうと思うし、担当に当たっている方は気の毒だというふうに思っております。しかしながら、一面、先ほど市長が申されたように、館山市の土地は公的な土地でございます。やはり財産管理審議会の審議を経て購入しなければなりません。そして、今市長の答弁にあったように、不動産鑑定に基づいて、適正な価格でもって購入しなけりゃなりません。となってきますと、2回の評価替えがあった中でもって、下がっているということを聞いております。時価相場については、もう値段のつけられないぐらい下がっておる。これは、実際の取引の例が少ないからという中でございますから。これが事実だということになりますと、いずれこの購入資産につきまして含み損も出てくるわけでございます。この額はN T Tの欠損額以上のものがございます。だれが悪いわけではございません。

ここでもって一つ指摘しなきゃいけないのは、財産管理審議会の中でもって、今市長が言われたように、公正な土地評価がなされておるのかどうかということ。土地評価額が出されていれば、それに従って財産を買わなきゃならないという規則があります。この規則違反が指摘された場合に、また大変な問題、N T T問題以上の問題が惹起されるおそれも私はあると思います。だれが悪いわけではありません。法律に基づいて出てきちゃうんです。これは国の政策が悪いといえぱそれまでです。国の政策が悪いから地価が下がってしまった。リゾートがうまくいかなかった。不況になったために企業が撤退しちゃった。したがって、地価が下がっちゃった。それだからといって、やはり評価額に基づいて財産管理審議会がきちんとやっていれば、含み損なりそういうものは出てこないはずなんですけれども、それを承知の上でもって — 今、平米当たりの単価が3,200円だということ saying していました。実際にこれの時価相場そのものが1,000円なり1,500円であるということが実証されておった場合に、こういうものを市が買っているということについては、犯罪的な行為につながりかねない心配が私はあると思うんです。ですから、これが一たびこういう問題でもってこじれると、大変な問題になろうかと思うわけでございますので、こころ辺についてはどのようにお考えになっておるのか。

私は、審議会の委員をやめた人と現職の人等に聞きましたら、この問題は出ていますよ、このままいけば大変なことになるということは、審議会の大多数の人はその都度言っているというふうなことも言われておりましたし、先般のヒアリングの中でも大分問題になっておりますよというようなことを言っておりましたけれども、これがそういうことでもって、ただ隠して引き延ばしてやっていった場合に、ある時点でもって大変な事態、また再び事件を繰り返すというようなことになりかねないと思うわけでございますけれども、こころ辺について — 私はこれがどうこ

うということではありませんけれども、そういう点についてどのように考えておられるのか。

きちんと対処してもらわないと、市議会議員もそういった点について、何もわからなかったのか、おまえらは、こういうふうなことになりかねないのもって、そこら辺が、私が今指摘したような問題が、危惧している点がどうなのか。私が思い過ごしで言っているのか、私に情報を提供してくれた方がかなりオーバーに言っているものなのかどうか、この点について市の御見解をお聞かせいただきたいと思います。

以上について再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） まず第1点目の、現在55.3%というようなことが — 進みぐあいが悪くないかというような御指摘でございますが、この用地買収は平成11年を目途として、買収を完了させる目途として今進めているわけございまして、共同相続人の調整だとか、あるいは抵当権解除だとか、そういったもので若干おくれる危険性はあるんじゃないかなろうか、今後とも努力していきたい、このように思っております。

それから、財産管理審議会にかけたかどうかということでございますが、まず今回は、2,000万以上、5,000平米以上は財産取得に係る議会の議決を必要といたしますので、ここに提案をしたわけございまして、その前に財産管理審議会は行ってございます。メンバーにつきましては、財産管理審議会の委員につきましては5名の委員でございまして、その中には専門の不動産鑑定の方もいらっしゃいます。

それから、今後の、いろいろ御指摘をいただきましたけれども、この考え方として、平成3年の10月に不動産鑑定評価に基づきまして決定された金額でございまして、その後、洲宮区、茂名区、真倉区へ土地価格について、地元の説明会を行って、各地権者の方々に提示をしてございますので、今後とも同一価格で取得を進めていきたい、このように思っておるわけでございます。

今辻田議員から御指摘のとおり、土地価格が下がっているんじゃないかなろうかというようなことでございますけれども、千葉県基準地の — これは一応参考でございますけれども、県が実施の地価調査に基づきまして、その場所の — 現在買おうとしているウエルネスリゾートパークの用地内ではございませんけれども、藤原のずっと先の方ですけれども、藤原の字片フタというところでございます。そこでは、元年から2年では10アール当たり270万というような金額が出ております。その後、県の調査地点が変わりまして、今竹原の方でございまして、平成8年度でやった金額が225万ということになっておりまして、今現在進めているウエルネスリゾートパークの用地が即それに該当するかということになりますと、疑問も残るわけでございますが、面として当初から買っております価格でございまして、今後ともこのような形でやらざるを得ない、進めていくということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） もう私はこれで終わりますけれども、開発公社の中の — 議員からも理事が出ておりますし、また委員会もあるわけでございますので。ただ、今おっしゃられましたように、2面性、3面性があるわけでございますから。確かに心理的には、平成3年にこれで買いますよと表示しちゃっていますから、買わなきゃならないという一つの約束事もあります。同時に、地価が — 法律でもって、不動産の鑑定に基づいて、時価で買わなきゃならないという一つの自治法の決まりがあります。これらを — どちらも正しいです。ただし、NTTの株と同じように含み損が出ちゃった場合に、責任は今度は、どちらもどっちじゃなくて、市へもう直接出てきますから。そのときには、議会の承認案件ですから、議員は何していたんだ。市の方は知らなかった。不動産鑑定委員会ではそういう内容は知らされなかった、調べません — 今回の場合通っていないということでございますから。そうなった場合に大変な事態にならないかと思って、その点を心配していますので、ここでどうこうということは言いませんで、私はこういう問題が現実的にならないように一石を投じておきますので、慎重な対応をお願いいたしまして、質問を終わりたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告しない議員で御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第13号は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

（10番議員宮沢治海君入場）

（16番議員鈴木忠夫君入場）

（18番議員日下君敏君入場）

（19番議員川名正二君入場）

（23番議員石井昌治君入場）

議案の上程

◎議長（山中金治郎君） 日程第3、議案第31号乃至議案第35号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（山中金治郎君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

1 番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1 番議員辻田 実君登壇）

◎1 番（辻田 実君） 通告をいたしました5点について御質問を申し上げます。

補正予算案7ページでございます。第2表、繰越明許費中、都市計画費について、御質問を2点にわたりまして申し上げます。1つは、館山駅西口土地区画整理事業の地上物件等の補償費の2,341万円が計上されているわけでございます。この繰越金は、地権者との話し合いが合意が得られなかったためということでございますけれども、何軒ぐらいの世帯の人がこれに該当するのか。この段階にまいりまして、このような形でもって2,000万からのものが繰り越されるということにつきましては、非常に今後の西口開発について問題であろうかと思っておりますので、ここら辺について、どういうふうになっておるのかお伺いをしたいと思います。

2番目には、そのすぐ下に館山駅の建設設計委託料3,853万円の繰り越しがなされておるわけでございます。この点は、私は予算に計上されたものがJRとの協議並びに調整に期間を要したためにおくってしまったということでもって繰り越されているということについては、大変な問題だなというふうな感じがするわけでございます。というのは、この問題については非常に市長を中心にして市民にアピールしておりまして、市役所の前にも模型が出ておりましたし、そして館山駅にはでかい看板が2つ、平成10年度を完成目標にでき上がりますという——立派な絵が載っているわけでございますけれども、8年度のものが繰り越されて、9年度に入りますと——あの看板を訂正しなきゃいけないような事態に追い込まれるということになりますと、これは執行部としても、我々としても、ちょっと抜き差しならない、何か追い込まれた、言いわけができないような状況になると思うわけでございますけれども、私は8年度中にこの設計委託は完了して、平成9年、10年でもって完成すると思っておったわけでございますけれども、どうしてこのようなおくれが出たのか、このおくれの取り戻しについてはどのようになるのか、この点についてもう少し詳しく——協議、調整が調わなかったということだけじゃ余りにもわからな過ぎますので、よろしくお願いします。

次に、21ページの土木費でございます。道路新設改良費についてでございますけれども、これについて1億213万円が減額になっておるわけでございます。これの市道の対象が6路線でございますけれども、これが要するに減額でございますから、8年度にはできなかった、こういうことになりますけれども、これ以降また改めてこれを新設しなきゃならない、こういうことでございます。これは非常に残念なことでございます。その理由が国庫補助金の減額によるという説明

でございますけれども、予算を編成する場合には、あらかじめこの路線をこのようにして、都市計画に基づいて設定しますということで、県ないし国と協議をして、よかろうということでもって予算を組み、国庫補助金も予算計上されているわけでございます。それがどういう事情でもって1億400万円も国庫補助金が打ち切られたかという——随分国も、財政赤字で苦しいといえども、乱暴なことをするなというふうに感じられるわけでございますけれども、ここら辺の経緯についてもう少しわかりやすく——国が横暴過ぎるのか、それとも市の方の手続が甘かったのか、打ち切られるような甘さがあったのか、そこら辺について、本音のところをひとつお教えいただきたいというふうに思います。

3番目に、22ページでございます。22ページの土地区画整理費として2,628万円について、これは移転交渉の不調によってということでございますけれども、移転交渉によっての不調が随分続いているようでございますけれども、この段階においてまたこのように予算を組んだものが流されていっちゃうということは問題だと思いますので、しつこいようでございますけれども、これはどういう状況なのか、今後これらについては見通しは明るいのかどうか、ここら辺について御説明をいただきたいと思います。

それから、23ページでございます。社会教育費の中の167万円の減でございますけれども、那古寺所有の県の指定文化財の修理費が予算計上されておったわけでございます。これが補助金の不採択によって予算を減額しなきゃならない、こういう事態になったということは、私は非常に異例なことだと思います。一応申請して、ある程度見通しがついたから予算計上したと思うわけでございますけれども、その予算が館山市で決定された以降、県の方でもってこれは認められない、不採択だから引っ込めますということ。額は少ないにしろ、今後こういう問題が多く出てきますと、本当に行政に不信と不満が募るわけでございますので、文化財というものは割合に予算が通りやすいというふうに言っておったんですけれども、どうしてこのように不採択なんていうふうな——補助金が不採択、予算に計上されたものが——予算に計上される前の申請が不採択なら別ですけれども、申請が受理された上でもって不採択ということは異常な事態だろうと思うわけございまして、ここら辺の経過について御説明を願いたいと思います。

それから、同じく23ページでございます。土木施設の災害復旧費でございますけれども、過日の台風でもって館山は大変な被害を受けて、本当に市民の方には御迷惑がかかっているわけでございますけれども、この予算が1億3,900万も減額になっておる。しかも、それが査定によって減額になったということでございますから、どうして査定によってこんな1億3,900万というものが削られちゃうのか。館山市は直ちに市民に対して回覧等を通じて被害状況を報告させて、この被害は災害補助金の適用を受けるというものをクリアして、そして市でもって十分審査して、これは災害復旧の補助金をもらわなきゃならないということでもって国、県に申請したもの。国、

県はそれを受理したと思うんです。受理したからここに予算を3億6,000万計上したわけですが、3分の1のものが受理されておりながら却下されてしまうということ、削られてしまうという、査定によってだめになっちゃうということはどういうことなのか、この点についてお伺いしたい。だめになってしまったわけですから、予算がありません。したがって、3分の1は、災害を受けて館山市としては認定していながら、そのところはもう復旧はできないわけですから、新しくやり直さなきゃいけないわけですから。その対応はできているのかどうなのか。災害復旧は何にも増して優先的にやらなければならない問題でございすけれども、そこら辺の関係がどのように手当てされているものなのか、この点についてお伺いをいたしたいと思います。

よろしく願いいたします。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

議案第31号に関します、繰越明許費にかかわる都市計画費についての御質問でございすが、西口地区土地区画整理事業地上物件等補償費につきましては、2名の権利者につきまして、本年度中に移転が完了しない見通しとなりましたので、繰越明許費の設定をお願いするものでございす。

次に、館山駅橋上駅舎等建設詳細設計委託料につきましては、東日本旅客鉄道株式会社千葉支社と平成8年11月に契約し、本年3月に完了する予定でございましたが、JR側によります駅施設の規模、内容等についての再検討が行われまして、それを踏まえて市と協議、調整があり、平成8年度中に設計が完了しない、この見通しとなりましたので、繰越明許費の設定をお願いするものでございす。

なお、駅舎供用開始は、計画どおり平成10年度中の供用開始を考えております。

次に、第2点目、道路新設改良費についての御質問でございすが、市道8042号線道路改良事業実施のため、国に対し補助金の要望をしまいましたが、平成8年度から大幅な補助金配分の見直しが行われたことによりまして、減額補正をしようとするものでございす。

次に、土地区画整理事業についての御質問でございすが、西口地区土地区画整理事業にかかわる地上物件等補償費につきましては、権利者との移転交渉が調わなかったことにより、減額しようとするものでございす。今後も権利者との合意形成に努めまして、早期に移転が完了するよう努力していく考えでございす。

次に、社会教育総務費についての御質問でございすが、県指定有形文化財、那古寺所有の絹本著色僧形八幡神像、この修復を県の補助事業として予算化いたしましたが、県内文化財の緊急

度の高い他の事業が優先されたため、平成8年度は不採択となりましたので、減額補正をしようとするものでございます。

次に、土木災害復旧費についての御質問でございますが、さきの台風17号による被災箇所について、県の指導及び国の第2次査定、第3次査定を受けましたが、広域的な大災害でありましたため、査定も大変厳しい内容となりました。減額の主な理由といたしましては、災害延長の削減と復旧工法の変更指導を受けたことによるものでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） まず、再質問の第1点といたしましては、3点について — 1つは、道路新設費の国庫補助金が国の政策として大幅な減額されたためにということでございますけれども、この点と、それから那古寺の文化財の修復が不採択になったということ、これは多かったですから、順位が下になったために削られたということ、それから土木施設のあれにつきまして、工法その他の問題でこのように — 件数も多かったのが削減されたということでございますので、その点についてはわかるわけでございますけれども、この3点について、一応基準に基づいて、県ないし国について書類は受理されているんですか。

それで、今後 — この種の問題はかなり多いんです。今後出てくることは可能だと思いますけれども、国や県と事前交渉 — 基準に基づいて、災害が起きた、このぐらゐの災害被害があった、それを市が認定して、国、県と交渉して、ある程度その書類が受理される、また内部的にされる見込みがついて予算化されるでしょうから、予算化されたものについては、やはり市も削られるということは大変なことでございますから、受理しておくのはいろんな事情もあろうけれども、何とか復活させていただきたいということをするのがやっぱり市の仕事の一部であろうかと思えます。そのために国会議員も出ておりますし、県会議員もいるわけで、なかなか優秀でございますから — こんなことで削られるなんていうのは恥ずかしい次第でございますので、こちら辺についてはどうなっておるのか、この点について。今後こういうことが起きるのかどうか、その点について。

2点ですね。1点は、書類が受理されたか、内交渉でもって内容を得ていたかということと、2番目の復活陳情というものはできなかったのかどうかという点についてお伺いをいたします。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 文化財の補助金の問題についての御質問でございますけれども、このことにつきましては、補助金申請につきまして、前年度内に文化課等とヒアリングをいたしまして、予定されるものについて、館山市はこういうものを予定するのでということで、一応の了解を得てやっております。しかしながら、ただいま市長答弁にもありましたように、緊急度の高い

ものが文化財について出る場合が往々にしてございます。そうしますというと、その補修等を先にやらなければならないものがあるわけですし、その方に——一定枠しかないお金でございますので、県の場合はそれを調整をして、そちらの方へとお金を回しているというのが現状でございます。例えば、館山市におきましても2例ございます。せんだって、那古の観音堂の屋根が風によってはがされてしまいました。私どもとしては、早急にそれを直さなければいけないということになると、大変な金額でございましたので、県に早速かけ合いました、何とかその補修方法についても協力方をお願いしたいということで、補助金申請は予定はしておりませんでしたけれども、その点につきまして御配慮いただきまして、手持ちの中から県の方としても御配慮いただいたというようなこともございますし、また大寺洞穴の問題等につきましても、一部そういうようなところもございますので、これはやむを得ないような状態が今回館山の場合は起こったのではないかなというふうに考える次第でございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 8款土木費の道路新設改良費の件についてお答えいたします。

これは、前年の6月ごろにいわゆる概算要望というのを県を通して国の方に出すわけでございますけれども、それが当年度に入りまして、通常であれば内示という形で来るわけでございますが、その間で、先ほど市長答弁にございましたように、補助金配分の見直しで、通常の補助金としては採択は難しいということで、いわゆる緊急地方道交付金というような形で、全額ではございませんが、これの補助に切りかわった、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 土木災害復旧費についてでございますが、さきの台風17号による被害で広域的な——市長答弁で申し上げましたとおり、広域的な大災害であったというようなことから、査定も大変厳しかったというような中で、まずその査定を受けられた状況でございますが、延長の削減をされたということでございます。これは、背後地の利用状況によって、緊急を要しないもの——いわゆる山林だとか竹林、休耕地というようなものがあつた場合に、そこらを切られたというようなことと、完全に崩壊しない部分も一緒にお願いした、そういう部分も切られました。基本的には工法ということでございますが、間知ブロックの積算で工法がされておりました。これは矢板だとか、あるいはブルだとかを入れるような工法でございますので、仮設の道路費あるいは舗装の復旧面積、そういったものをくみ上げてございましたので、そこらが大きく減額の理由になった。工法としては、かごマットだとか、あるいはフトンかごだとかというようなことで、工法を間知ブロックから多自然型の復旧工事、そういったものに変更をさせられたとい

うようなことでございまして、減額になったということでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。――御質疑なしと認めます。よって、質疑を終わります。

委員会付託

◎議長（山中金治郎君） ただいま議題となっております議案第31号乃至議案第35号の各議案は、お手元に配付の議案付託表のとおり、所管の常任委員会に付託をいたします。

発言の訂正

◎議長（山中金治郎君） この際申し上げます。

議案第13号に対する答弁中、一部訂正したいという申し出がありましたので、建設部長、お願いいたします。

◎建設部長（鈴木信一君） 先ほど辻田議員への御答弁の中で、館山市の財産管理審議会委員の中で、5名の中に不動産鑑定の特門家がいるということに触れましたが、不動産鑑定士はいませんので、御訂正いただきます。

◎議長（山中金治郎君） 以上のとおり御了承をお願いします。

議長の報告

◎議長（山中金治郎君） なお、この際申し上げます。

2月28日の議会運営委員会までに受理した陳情書は、お手元に配付の陳情送付表のとおり、所管の常任委員会に送付いたしましたので、報告をいたします。

延 会 午後2時22分

◎議長（山中金治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（山中金治郎君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明13日午前10時開会とし、その議事は平成9年度各会計予算の審議といたします。

◎本日の会議に付した事件

1 議案第9号乃至議案第35号

